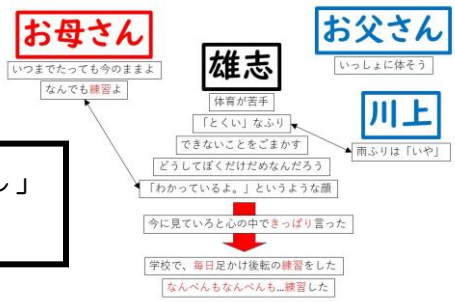
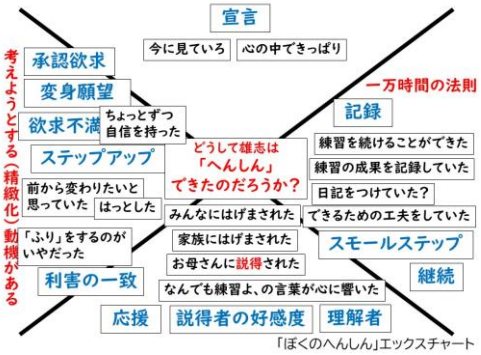
令和4年度

学習指導案（略案）

4月25日(月)６校時

道徳科	単元名「ぼくのへんしん」	指導者　長谷川　洋

【本時のねらい】　・雄志が「へんしん」できた理由を考え、自分の「へんしん」に役立たせる。
【本時の指導】（１／１時間目）

	学習内容など	指導上の留意点
導入 ５分	● 指導者が児童作文「ぼくのへんしん」を朗読するのを聞く（5分）	□ 指導者として強調したい部分があるが、誘導的にならないように強調せずに読む。例「ぼくは、はっとした」「今に見ていろと心の中できっぱり言った」「テレビ体そうを始めて二十一日めに」「毎日足かけ後転の練習をした」など
展開 ３５分	● 「ぼくのへんしん」の中で、どんな出来事があったのかを確かめる（5分） 【学習問題】どうして雄志は「へんしん」できたのだろうか？ ● どうして雄志は「へんしん」できたのかを、各自考えて原稿用紙右側に書く。（5分）【個の学び】 ● 各自の考えをペアになって話し合う。（5分）【協働の学び】 ● ペアでの話し合いをふまえ、雄志が「へんしん」できた理由を発表する。（15分） ● 指導者の考え（宣言、継続、記録）を聞く。（5分）	□ 登場人物「雄志（ゆうじ）」「川上」「お母さん」「お父さん」「妹」「先生」「みんな」「誰か」  □ 箇条書きでもよい。 □ 自分とは違った考えに気づかせる。【多様性の尊重】 □ 指導者がカードに書き、エックスチャートにまとめる。【思考ツール】  □ 「１万時間の法則」を紹介する。 一万時間練習を続ければ“本物”になる「一万時間の法則」（１日3時間だと約9年）
終末 ５分	● 自分が、「へんしん」したいことを書く。（5分）	□ 「そのためにどうしたらよいか」も書かせる

【本時の評価】・自分が「へんしん」したいことを、具体策も含めて書けたかどうか。